



## 華やぐ江戸の文化

徳川宗家十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川恒孝つねたか



### 静岡市の芭蕉句碑

左「雲霧の暫時百景をつくしけり」貞亨二年(1685)作・鉄舟寺観音堂に天保十年(1839)建立。  
中「駿河路やはなたちばなも茶のほひ」元禄七年(1694)作・清水寺に明和七年(1770)建立。  
右「梅わかな丸子の宿のどろろ汁」元禄四年(1691)作・文化十一年(1814)建立・丁子屋前に昭和五年(1930)に移建。

長い戦乱の時代が終わって江戸時代に入り、日本は大変なエネルギーで発展を開始します。平和の生み出す巨大な力です。

平和になって御用済みとなった雑兵たち、主君を失った武士たちは、農業に復帰します。日本中で沢山の子供たちが生まれてきます。

江戸城をはじめ、各地の大名の城郭の建設や改修が行われ、京都の復興に力が入られます。日本の動脈となる各街道の整備、宿場の整備、河川の治水工事、土木工事による新田開発のブームが起ります。

江戸時代の最初の百年で色々なことが進んで「江戸時代のかたち」が完成。江戸二百六十五年の中で最も華やかな元禄時代を迎えます。

日本の人口は約三千万に達し、

この百年の間に人口は二倍半、田畑の面積も約二倍になりました。昔の繁った広大な沼地が水田に変わったわけで、戦国時代のあとに生まれたベビーブーマーたちが懸命に働んだお陰です。

天和三年(一六八三)、三井高利が江戸に三井両替店の支店を開設し、江戸と京都・大坂を結ぶ為替業務をスタートすると、幕府は御為替御用達に任命。三井家は、日本橋に呉服商「三井越後屋」を営むと同時に、いち早く金融の世界を切り開いていきます。

住友家は別子銅山を開発し、鴻池家は酒造から海運業、金融業に発展して大坂唯一の商家となっ  
ていきます。

大丸、白木屋などが江戸に出店したのも、この頃です。商工業の先進地域だった関西の資本が次々と江戸に進出し、本店から全店員が

派遣されます。

参勤交代の武士も、その召使たちも、商店の店員も皆、単身赴任で、江戸は男の街です。この環境の中で、吉原を中心とした遊郭の文化が育まれていきます。

もう建築ブームは過ぎていきますが、代わりに花開いた文化と洗練の時代です。この華やかな時代を彩る人々として、井原西鶴、近松門左衛門、竹本義太夫、坂田藤十郎、市川団十郎、松尾芭蕉、伊藤仁斎、新井白石、尾形光琳、尾形乾山、菱川師宣などが登場します。

暦学の渋川春海、和算の関孝和、本草学の貝原益軒などの学問も進み、五代将軍・綱吉公の命で日本の儒教と学問の殿堂となる湯島の聖堂が建設されます。

そして元禄十五年(一七〇二)十二月、赤穂浪士が吉良邸へ討ち入りを行ないます。